

課題

- 児童生徒は、自分の思いや考えを主体的に表現することが苦手。
- 全国学テ・県学調で、英文の記述問題の正答率が低く、無解答の生徒もいた。
⇒考えられる原因...自分の思いや考えを持ち、英語で伝える機会の不足と、それを実行する英語運用能力の不足。

具体的な取組と工夫

【研究主題】

自分の考えや思いを主体的に伝え合う児童生徒の育成 ～Try out活動を通した思考力・判断力・表現力の向上を目指して～

【町内統一の授業での取組】

- Small TalkにTry outを導入
- 小・中学校でSmall Talkの流れを統一
- Try outの要素をその他の活動にも導入
- 小・中学校で中間指導の方法を共有

【授業以外での取組】

- 6月～12月に月一度の公開授業
- 定期的な授業の録画と検証
- 冬休みに模擬授業・指導案検討会
- 太田洋教授とのzoom会議を4回

☆Try outとは☆

コミュニケーションを図る目的・場面・状況に応じて、児童生徒が伝えたい内容を、自分で既習事項の中から必要な英語表現を選んで(即興的に)やり取りする言語活動。
(東京家政大学 太田洋教授)



成果

【児童生徒】

- 自分の気持ちや考えを英語で伝えられる技能が身についてきている。
- 授業を楽しみ、主体的に学ぶことや、自分から英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきている。
- 既習事項を活用し、自分で英文を作る表現力が向上してきている。

【教員】

- Small Talkを楽しみ、児童生徒の実態に合った中間指導ができるようになってきている。
- 「教え込む」ことよりも、児童生徒から良い点・課題点を「引き出し」、共有することが増えてきた。

課題及び改善案

【課題】

- 児童生徒...英語への苦手意識がある。
- 教員...児童生徒・活動の見取りや中間指導が上手くいかないことがある。

【改善案】

- 児童生徒の感じる負担感・抵抗感を減らす工夫を行う。
- 見取り方の再検討。どのような場面で、どのような見取り方が適切か検証する。
- 中間指導のみを録画で検証。褒めているか、指導内容が適切で偏っていないか等を確認する。